

ウィズコロナ時代に即した施策と 昼間人口の創出



坂東市長
木村 敏文 氏



筑波銀行岩井支店長
白澤 航洋

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県坂東市です。筑波銀行岩井支店長 白澤 航洋が坂東市長 木村 敏文氏にお話を伺いました。

ウィズコロナ時代の施策

イベントの再開

2020年春ごろから流行している新型コロナウイルス感染症の影響により、本市でも様々なイベントを中止し、流行の収束を待ち望んできましたが、今年7月から始まった第7波の収束もいまだ見通せない状況です。私には、このままアフターコロナを待っていると、人々の意欲も経済もどんどんしぼみ、にぎわいが回復できない状態になってしまうという危機感があり、今は「ウィズコロナ」でできることを行っていくことが重要であると考えています。

そこで、本市を代表する「第49回坂東市将門まつり」、「第32回坂東市将門ハーフマラソン大会」を11月13日（茨城県民の日）に開催する予定です。会場につながるすべての道で来場者全員の検温を実施し、実施した人は目印のシールを貼るなどの感染対策を徹底します。



坂東市将門ハーフマラソン大会

新型コロナウイルスワクチンの「おまかせ予約」

本市では、新型コロナウイルスワクチンの3回目および4回目の接種において、60歳以上の方には「おまかせ予約」を導入しました。これは、市が接種の日時、医療機関、ワクチンの種類をあらかじめ決めて接種券とともに通知し、通知を受けた方は、指定された日時・場所に行けば接種が受けられる仕組みです。予約の手間がないため、本市の接種率は茨城県で一時、1、2番目の高さになりました。ただし、若い方の接種率が低いので、接種を呼びかけて新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めていきます。

全国初の^{ダブル}Wプレミアム商品券の販売

消費の落ち込みからの復活・消費拡大が目的の経済対策として、地方創生臨時交付金を活用した2種類の商品券を発売しています。1つは「W^{ダブル}プレミアム商品券」で、市民へのプレミアムは100%、1セット3,000円の購入で6,000円分の商品券が付いてきます。さらに、加盟店が換金する際にも5%のプレミアムを付けて支払われます。この2つのプレミアムから「ダブル」プレミアムという名称にしました。

もう1つは「地域応援商品券」で、こちらは市民でなくてもどなたでも購入できます。1セット10,000円で商品券も10,000円分のため購入者へのプレミアムはありませんが、加盟店が換金する際には5%のプレミアムを付けて支払われる、文字どおり市内の店舗を応援するための商品券です。住民にプレミアムを付ける商品券は全国で導入されていますが、店舗側の換金時に上乗せする商品券の取り組みは全国初です。

販売率は、Wプレミアム商品券が販売予定33,000セットのうち約6割で、地域応援商品券が販売予定5,000セットのうち約8割と、地域応援商品券のほうが高くなっています。これは地域の店舗を応援したいという市民の意向の表れであり、地元の店舗も力づけられていると感じています。

農業への支援

畑地帯総合整備事業の進展

本市は大消費地東京に近い地域特性を活かして、総面積12,303haの約48%にもおよぶ5,869haの広大な農地に、野菜を中心に水稲、畜産など多様な農業を営んでいます。しかし、少子高齢化の進行等で農家の後継者不足などの問題が出てきており、この解決のために1988（昭和63）年から茨城県とともに「畑地帯総合整備事業（通称、畑総^{はたそう}）」を進めています。

畑総は、畑作物の生産振興と農家の経営安定を図ることを目的に、用排水施設や農道の整備、区画整理、農家の育成・支援を一体的に実施する事業です。市内の9地区で実施され、面積は本市の農地の約11%、648.8haにおよび、県内ではトップクラスです。

事業に係る費用は、国50%、県25%、地元25%（市負担含む）の割合で負担しますが、受益者の負担は、幹線道路の用地代金を充てたり、農地の集積、集約を行ったりすることで軽減されます。霞ヶ浦用水の灌漑施設の利用料は負担しますが、かわりに天候に左右されずに耕作できるため、受益者にとってのメリットは非常に大きいです。

特産農作物のプロモーション

本市の代表的な農作物は、ねぎ、レタス、はくさい、トマトなどです。長年の実績で市場から認知・評価される産地となり、夏ねぎと春レタスが「茨城県青果物銘柄産地」に、冬春トマト、春はくさいが「茨城県青果物銘柄推進産地」に指定されています。

これらの農作物の認知度をさらに高めるため、

主に県内や首都圏の催事会場へ出展し、「坂東ねぎのアヒージョ」などの調理法や食文化の紹介も行うなど積極的なPR活動を実施しています。

また、他の産地と連携した宣伝も実施しています。例えば、全国のねぎの産地が一堂に会する「全国ねぎサミット」は、今年10月に3年ぶりに山形県新庄市での開催が予定されており、全国に本市のねぎをPRするのが楽しみです。

本市の農業経営体当たりの農業産出額は、茨城県平均・全国平均よりもはるかに高くなっています。これは、品質の良い作物を一定量以上出荷していること、さらに、地元のJAが価格を調整する力があることが理由です。例えば、ねぎの初競り価格は、本市特産の「（まるいわ）ねぎ」が基準となるほどです。

産業振興

山地区の工業団地開発

工業団地を整備して企業誘致を図り、産業振興を進めています。本市は圏央道が通り、首都圏からも近いことから、本市が施行した坂東インター工業団地は17区画すべて完売しました。次の一手は、茨城県が施行する山地区の工業団地の開発です。

圏央道の4車線化工事が進捗しており、茨城県でもこの機運をとらえて積極的な企業誘致を進めることを検討しています。IT分野の成長と半導体不足、SDGs、CO₂削減といった世界的な課題への対応とともに、海外の工場を国内に戻し、サプライチェーンを再構築できるような企業の誘致を目指して、今年度中に調査と誘致活動を実施し、2023年度に着工する見込みです。

坂東インター工業団地から新規工業団地（山地区）方面を望む



圏央道パーキングエリアの整備

圏央道坂東IC付近に、高速道路と一般道両方からアクセス可能な休憩施設と都市公園機能のある一体的な施設を想定したPAを整備する予定です。

民間事業者の意見も反映させるため、サウンディング調査も取り入れながら計画を進めています。まずは、国がPAの駐車場とトイレを整備し、市ではコンビニエンスストア等の物販施設を誘致します。隣接する既存の公園「桜の里山」と一体化させ、人の流れが作れる有益なエリアを目指しています。スマートICについては、利用見込み等も勘案しながら今後検討していきます。

本市の現在の財政状況を考えると、施設整備は慎重に進める必要があります。就任後の5年間で行財政改革をかなり前倒しで進めたため、一般会計の起債残高はこの3カ年度で約25億円減少し、立て直しは進んでいますが、民間資本を積極的に活用するなどして、財政支出を極力抑えていくことが重要です。

昼間人口の創出

企業誘致による女性の就労機会確保

工業団地の造成と企業誘致は、昼間人口の増加にも寄与する施策です。17区画が完売した坂東インター工業団地への進出企業の中には、採用する人員のうち7割を女性とする企業もあります。女性の働く場、就労機会を確保することで、昼間人口だけでなく、将来の定住人口の増加にもつながると期待しています。

坂東清風高校生への資格取得支援

昼間人口増加につながるものとして、市内唯一の高校である坂東清風高校の生徒に対し、英語検定や簿記検定など進学や就職に有利な15種類の資格取得を補助する事業を今年度から開始しました。志願者数が減少傾向にある地元の高校に特色を持たせることで、入学者の増加を図るとともに、将来を担う若者の育成を図ります。

公共交通網の整備

市内・近隣市との公共交通の充実

車を運転しない人などの移動手段として、コミュニティバス「坂東号」、デマンドタクシー「らくらく」を運行しています。また、市内に鉄道駅がなくても不便ではないよう、路線バスは、TX守谷駅、東武鉄道野田市駅・愛宕駅を結ぶルートが設定されています。今後、新しく整備する山地区の工業団地に進出する企業のニーズに応えるため、坂東インター工業団地から北へバス路線を延伸することも検討していきます。

2021年12月には、TX守谷駅とミュージアムパーク茨城県自然博物館をつなぐ路線が新設され、観光面で人の流れを生んでいます。さらに、守谷駅へ向かう便は市内乗車のみ、守谷駅から本市へ戻る便は市内降車のみが可能な「直行坂東号」を市が運行しており、主に通勤、通学者の足を支えています。近隣の市にある鉄道駅からの公共交通がないという事態を防ぐため、路線バス事業者に、国や県とともに補助金を交付して運営を支援しています。

悲願の鉄道誘致活動

本市に鉄道を走らせるための高速鉄道東京8号線（有楽町線）の延伸・誘致活動については、2016年4月の国土交通大臣の諮問機関である交通政策審議会の答申で「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」として、押上から野田市の区間が位置づけられました。この答申は15年に1度の長いスパンで出されるもので、前回の答申は2001年にさかのぼります。東京8号線の誘致は本市にとっての悲願であり、数十年来ずっと活動を続けているので、今回の答申は進展ととらえています。

今後、野田市までの工事の具体化にしたがって、野田から北への延伸も議論されると予想されます。私は「操車場はぜひ、坂東市へ」と提案しています。野田市から北に延伸するには利根川に橋を架ける必要がありますが、本市は、近隣自治体に比べ高台が多く、その高台に車両基地を設置することで、令和元年東日本台風での北陸新幹線の浸水事故のような出来事を防げると、地形を基にPRしています。

私の親世代が熱望し、1958（昭和33）年に芽吹大橋を開通させたように、利根川を渡って首都圏とつながることは本市にとって非常に有益なことです。鉄道ができることで人の流れは大きく変わります。茨城県は可住地面積が他の自治体に比べて格段に広く、本市のみならず開発余地は大いにあるので、その優位性をアピールしていこうと考えています。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行は、かねてから、住宅を建てたり車を買ったりという市民からの相談や、地元の商店主の困りごとなどに密着して解決するなど、まちの相談事に親身になって応えてくれました。

これからも、地元のお客様のニーズや要望を細やかに聞いてくれる庶民の味方であることを期待しています。

（取材日：2022年9月2日）



わがまちの農作物 -坂東市-

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

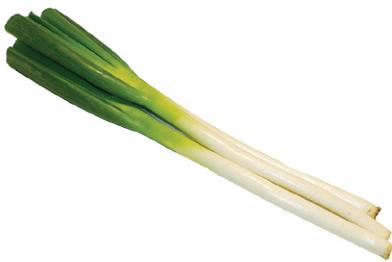
坂東市の野菜 茨城県青果物銘柄産地／青果物銘柄推進産地

坂東市では、たくさんの種類の野菜が栽培され、特に夏ねぎ、春レタスは「茨城県青果物銘柄産地」として指定を受けています。茨城県青果物銘柄産地とは、産地間競争が激化する中で、高品質で信頼性・安全性が市場で高く評価され、多様化するニーズに対応できる、県を代表する青果物産地を育成・指定する制度です。銘柄産地は市場販売額が概ね1億円以上、銘柄推進産地は市場販売額が概ね3千万円以上の産地が指定されます（他に指定要件あり）。

茨城県青果物銘柄産地指定の野菜



レタス
葉肉がやわらかくシャキシャキの食感が魅力です。春はサラダで、冬はしゃぶしゃぶがおすすめです。



ねぎ
夏ねぎは全国一の生産量を誇ります。やわらかくて辛みと甘みのバランスに優れた「シャキシャキねぎ」です。

茨城県青果物銘柄推進産地指定の野菜



はくさい
春はくさいはみずみずしく、秋冬はくさいに比べてやわらかさが増すため、サラダなどの生食にもおすすめです。



トマト
甘みが強く熟しても崩れないのが特徴です。選ぶポイントは、へたがピンと張った緑色で、全体の赤みにムラがないものです。

産出額の多い野菜

<p>キャベツ</p> 	<p>ハウレンソウ</p> 	<p>チンゲンサイ</p> 	<p>セルリー</p> 
---	---	--	---

坂東市特産ネギを使ったおいしい料理 坂東ねぎのアヒージョ



《 材料 》

- ねぎ……………2本
- にんにく……………1～4片
- 厚切りベーコン… 適量
- オリーブオイル… 適量
- 白だし……………少々
- ハーブソルト… 少々
- たかの爪……………少々

《 つくり方 》

1. ねぎは4センチの長さに切り、厚切りベーコンも適当に切ります。にんにくは包丁の背でつぶします。
2. フライパンに1. とたかの爪、材料が半分くらい浸る程度のオリーブオイルを入れます。
3. 火が通るまでコトコト煮込み、白だし、ハーブソルトで味を調えたら、できあがり！